



## 小鹿野中央病院を振り返かって

小鹿野中央病院事務長

小鹿野中央病院は、昭和28年5月「国民健康保険直営小鹿野町立病院」として産声をあげ、60年が過ぎようとしています。改めて、60年の歴史を振り返り、足下を見つめ直してみたいと思います。

開設当時は一般病床36床でスタートし、昭和29年7月に伝染病棟増築（26床）、同年10月に結核病棟増築（32床）。

昭和34年7月には「国民健康保険町立小鹿野中央病院」と改称し、その後、改築工事による増床、医療機器等の充実を図り地域医療の一翼を担ってまいりました。

平成12年12月に病棟増改築工事に着工し、平成14年1月完成（一般病棟45床、療養病棟50床）同年4月には保健福祉センターが併設され地域包括ケアシステムが本格的に始動しました。

埼玉県の中で、町として病院を持っているのは小鹿野町のみで有り、昭和28年当時病院開設を決定するには、難しい判断と大きな決断力があつたことは想像に難くありません。

また、60年の長きに渡り、当院の歴史が綴られたことは、地域の皆様にご支援、ご協力いただき、支えられた結果だと思っています。

現在の医療を取り巻く環境は、平成16年に導入された「新医師臨床制度」の導入に端を発した全国的な勤務医不足や、度重なる診療報酬のマイナス改定により医療現場は疲弊し、結果として地域医療崩壊が叫ばれる状況となっています。このことは、当院にとっても無関係ではなく勤務医師数は最大時の半分ほどに減少し、二次救急輪番制からの撤退を余儀なくされるなど厳しい環境が続いています。

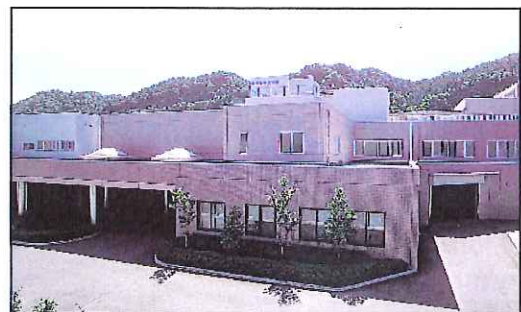
一つの病院ですべての医療が完結することはなく、各病院での役割分担が必要となっています。医療連携は益々進み、各病院がその役割をしっかりと果たしていくことが地域の医療を守っていくこととなります。

小鹿野町の高齢化率も30%を超えてきました。病院の必要性は益々高まってくるように思います。

当院も、人間でいえば還暦を過ぎようとしています。還暦は「生まれたときに還る」と理解されているようです。

この機会に、もう一度原点に立ち返り、改めて当院の役割、医療のあり方を見つめ直したいと思っています。

病院の基本理念である「地域に親しまれ信頼される病院」に近づくよう職員一同力をあわせて努力してまいりますので、引き続きご支援、ご協力をいただきますようお願いいたします。





## \* \* 花粉症の季節になりました。

### 準備は大丈夫ですか？ \* \*

花粉症をよく理解し、早めに対策して、軽く済ませましょう。

花粉症の3大症状は「くしゃみ、鼻みず、鼻づまり」です。異物が鼻から侵入すると、生体防御反応が現れますが、アレルギー反応によってそれらが過剰に発現するのが花粉症の症状です。

原因となる花粉の代表は、スギ、ヒノキなどがあります。これらの花粉の飛散時期は2月から6月くらいです。スギ花粉症は年々増加しています。



花粉のばく露を避けるための基本的な対策には、以下のものが挙げられます。

- ・マスク、メガネを着用する。特にマスク内側の鼻口部分にガーゼを当てると効果が高い。
- ・換気時にはレースのカーテン等でさえぎるとともに、窓を開けるときは10cm程度にとどめる。
- ・掃除はこまめに行い、掃除機の使用だけでなく、濡れ雑巾やモップによる清掃を行う。
- ・帰宅時には、玄関先で衣類や髪についた花粉を払い落とす。
- ・洗濯物は、屋外に干すことを控える。



花粉が飛びはじめる前、もしくは症状が軽いうちに治療を始めることを初期療法といいます。初期療法をおこなうと、症状が出るのを遅らせたり、症状をかるくしたりできる可能性があります。症状に合わせた治療が勧められます。

※ 花粉症は早めの治療開始をお勧めします。

当院の耳鼻咽喉科の診療時間は下記のとおりです。

耳鼻咽喉科	月	午前 9 : 3 0 ~ 1 1 : 3 0
	火・木	午後 1 : 3 0 ~ 2 : 4 5

※ ただし、祝日は除きます。

※ 3月6日(木)は、都合により耳鼻咽喉科は休診となります。



〈発行〉 国保町立小鹿野中央病院 〒368-0105 埼玉県秩父郡小鹿野町小鹿野300番地  
電話(代表) 0494-75-2332 FAX 0494-75-3313

〈ホームページ〉 「国保町立小鹿野中央病院」で検索、または「小鹿野町」のホームページからどうぞ。